一般質問

11月30日、12月1日の本会議で、22人の議員が市政全般について一般質問を行いました。要旨は次のとおりです。

公会堂入口にエスカレーター設置でバリアフリー化を図れ

政新クラブ　加藤　浩司　議員

議員　今後の三鷹市において、市民センター周辺地区の更新は重要な取り組みの一つだ。市長が第3次基本計画（第2次改定）で、最重点プロジェクトとして「都市の更新・再生プロジェクト」を追加したことからも事業の重要性と市の意気込みが伝わってくる。中でも公会堂は、耐震改修と合わせたリニューアル整備により更新を図る方向で計画が進められている。例えば、公会堂正面玄関のエスカレーター設置は絶対に必要な整備であり、基本計画に盛り込むべきだ。今後は、さらなる高齢社会の進行等が予想され、広い意味でのバリアフリーをどう考えていくのかが非常に大切だ。公会堂のリニューアルに伴うバリアフリー化について市長の所見を伺う。

市長　公会堂の本館と別館のバリアフリー化については、「公会堂等の整備に関する基本方針」に基づき整備に取り組む。今後、別館においては障がい者用トイレ等の設置を初め、バリアフリーを目的とした全面的な建て替えをする。さらに、本館とデッキで接続し、公会堂入口としての機能も追加する。また公会堂正面玄関のエスカレーター設置については、関係法令の適合性等の課題はあるが、設置の方向で具体的に検討する。

〈その他の質問〉市職員の人財育成の基本的な考え方について

安全点検を徹底しまちの改善に努めよ

政新クラブ　土屋　健一　議員

議員　市道の新設・舗装替えの際には都市型水害対策や交通事故防止のために透水性舗装を活用すべきだ。

市長　歩道・遊歩道では積極的に採用している。

議員　歩道の表層は耐荷重性に欠け、クラックや沈下が発生し歩行等に影響を与えている。対応策を伺う。

市長　道交法に基づき、車どめ設置等による乗り上げ防止対策を検討していく。

議員　道路のカーブミラーや街路灯が十分に機能を果たし、市民の安全安心を守っていくためには積極的な点検パトロールが必要だ。

都市整備部技監　他の業務で市内を回る職員にも市内点検を指示している。

議員　点字ブロックにかわり、近年開発された音声誘導システム等の導入に向けた調査研究の状況を伺う。

都市整備部技監　実証実験を踏まえた基準等の整理状況を判断し対応していく。

議員　三鷹駅南口デッキのエスカレーターの稼働時間を省エネ設定にすべきだ。

都市整備部技監　JRの運行時間を考慮している。

議員　デッキの西側には屋根がなく、大雨や雪解けの際の水たまりにより通行が困難になる。雨対策を伺う。

都市整備部技監　誘導員を配置し安全を図っていく。

議員　まちの安全管理を総括的に所管する部署を設置することでワンストップの対応が可能だ。見解を問う。

市長　今後、研究していく。

生活道路の安全施策の全市的な展開を進めよ

政新クラブ　伊東　光則　議員

議員　本市では平成8年度から9年度にかけて、住宅街の総合的な交通安全対策「コミュニティ・ゾーン整備事業」を全国に先駆けて実施した。その効果を伺う。

市長　地区内への通過車両が減少し、地域の安全で快適な環境改善がなされた。

議員　その後、平成17年度から19年度にかけて、路側帯のカラー化等「あんしん歩行エリア整備事業」を実施した。その効果を伺う。

市長　エリア内道路で交通事故が約3割抑制された。

議員　「コミュニティ・ゾーン整備事業」「あんしん歩行エリア整備事業」の効果を踏まえ、生活道路の安全に向けた取り組みを聞く。

市長　車中心の社会から歩行者を優先した道路環境整備に取り組んでいきたい。

議員　モデル地区以外でも全市的な事業展開を推進すべきと考える。所見を伺う。

市長　事業効果が実証された手法について、今後も可能な範囲で取り組みたい。

議員　小中学校の交通安全指導は、より実効性のある取り組みを進めるべきだ。

教育長　コミュニティ・スクール委員会で地域の啓発活動を支援していきたい。

あんしん歩行エリア整備後の道路（すずかけ通り）

議員　交通事故のない暮らしを実現するために、関係機関との協働を強化せよ。

市長　今後も、引き続き東京都、三鷹警察署等との情報共有・連携に努めたい。

〈その他の質問〉命の教育について

法定外公共物の現状と今後の取り組みを問う

政新クラブ　渥美　典尚　議員

議員　法定外公共物とは、本市では里道・水路等と定義されるもので、一般的に、里道は赤道、水路は青道と呼ばれ、元々はあぜ道・用水路等であった。里道等は狭い道が多く、法律上の道路ではなく、国有地とされていたが、平成12年の地方分権一括法の施行により、管理が国から市町村へと移管された。本市における法定外公共物の現状を伺う。

市長　平成20年度末現在の面積は約7万9千10平方メートルで、土地交換・払い下げ等を行った面積は約4千803平方メートルである。

議員　法定外公共物について市民が閲覧・入手できるような図面等はあるのか。

市長　法定外公共物の「特定図」と確定した箇所の「境界確定図」は、閲覧・コピーすることができる。

議員　いつの間にか民間の土地が法定外公共物に食い込んでいることがあり、知らずに敷地として使用している地権者も多いという。市は、こうした地権者に対しアンケートを行ったと聞くが、その回答状況を伺う。

都市整備部技監　土地を活用したいと答えた地権者のうち、希望する活用方法として、賃貸借契約が21件、土地交換が12件、払い下げが119件という結果であった。

議員　法定外公共物に関する今後の市の方針を聞く。

都市整備部技監　これまで実施したアンケート結果も考慮し、適切な管理を図る。

小・中一貫教育のさらなる充実・発展を

政新クラブ　伊藤　俊明　議員

議員　小・中一貫教育校の全市展開を踏まえ、今後の小・中一貫教育の取り組みに期待することは何か、総括的に市長の所見を聞く。

市長　教育委員会の取り組みにより、学校を核としたコミュニティづくりが進展することを期待している。

議員　コミュニティ・スクール・コミュニティ」という言葉は、まだなじみが薄い。その理念と具体的な展望についての所見を伺う。

教育長　学校を重要な社会基盤としてとらえ直し、コミュニティ醸成の拠点として機能させ、学校と地域の協働を質の高いものにすることが重要と考えている。

議員　北野小の校庭が全面芝生化された。学校の教育活動に大きな効果があると考えるが、今後の芝生化実施校の拡充について聞く。

教育部長　今後も計画的に整備を進めていきたい。

議員　児童・生徒の活字離れが指摘されている。読書活動充実のための学校図書館のあり方について聞く。

図書館担当部長　児童・生徒のニーズを踏まえ、読書習慣の確立につながるよう創意工夫をしていきたい。

新政権の動向に注視し健全な市政運営を図れ

政新クラブ　宍戸　治重　議員

議員　新しい政権は脱官僚依存と政治主導の新しい政治システムを目指している。新政権とどう向き合い市政運営に取り組むのか。

市長　適切な関係の確立が図られるよう努めていく。

議員　事業仕分けは、税収不足や概算要求削減のためだけの小手先での切り詰めではなく、現場の視点での検証に意味がある。行政刷新会議の事業仕分けが市政運営に及ぼす影響を伺う。

市長　仕分けの結果を踏まえた国の予算編成の動向によるため、関係方面からの情報収集を徹底している。

議員　租税特別措置、地方交付税は市財政に大きな影響を及ぼし、仕分けの結果によっては市政運営の変換を余儀なくさせる。平成22年度予算編成に係る税収予測と編成の考え方を聞く。

市長　市民税は今年度比約20億円の減収を推計した。国・都の動向を踏まえ、事業の見直し、財政確保の取り組みを強化して、健全な財政運営に意を用いている。

議員　今後は政府の上意下達が主流となり自治体の意見が反映されないことが危惧される。政府と首長との関係について所見を伺う。

市長　今後、政府と地方六団体が中心となって協議・調整が行われると考える。

議員　政府の掲げた温室効果ガス削減目標には国民の理解を得ることが必要だ。

生活環境部長　国の動向を見ながら取り組んでいく。

教育改革の流れを後退させてはならない

政新クラブ　吉野　和之　議員

議員　これまでの教育改革の流れが、新政権によって大きく転換されつつある。全国学力テストについて、

（4面へ続く）